

中で問題にする情報発信の萎縮が起こる。萎縮を防ぎ、炎上に負けずに情報発信を励ますことが、ここで考える炎上リテラシー教育である。それはどんな教育になるのか。以下の文章はこのリテラシー教育を高校生向けに行うと想定して書いたものである。

---

### 「高校生のための荒らし・炎上リテラシー」

ネットで何か意見を述べていると、ひどく攻撃的な言葉を投げつけられて嫌な思いをすることがあります。こういうのを荒らしとといいます。さらに、後から後からそういう人が現れて収拾がつかなくなることがあり、炎上と呼ばれます。これにどう対処するかを以下3つに分けて考えてみましょう。

#### 1. 言葉使いは良識に従う。

炎上を起こしても仕方がないような「良識に反した無礼な言葉使い」があります。そういう表現はしないように気をつけましょう。

#たとえば、Aさんの意見が間違っていると強く思ったとき、「Aさんはバカで、何もわかっていない」と書くのと、「Aさんの〇〇という意見はおかしいと思う」と書くのではだいぶ印象が違います。前者ではAさんという人間を丸ごと貶めています。後者はAさんの考え方について意見を語っているだけです。反論するときは人と意見を分け、人については語らず、意見について語るのがよい方法で。わずかな違いと思うかもしれませんが、聞いている方から見ればだいぶ違います。

何が良識に沿うかはわかりにくいところですが、コツとしては、当人あるいは当人のファンが目の前にいても言えるような言い方で話すとういでしょう。

#### 2. 炎上や荒らしにあってしまったときの対処

良識に沿って話していても荒らしや炎上にあってしまうことはあります。そ

のときどうすればよいでしょうか。箇条書きで書いてみます。

### (1) 謝罪

もし批判の内容がもっともなら認めましょう。言い方が悪かったとか部分的に謝罪してもよいと思うところがあれば、そこだけでも謝罪するのがよいです。あなたに非があるのなら認めてしまうのがなにより最大の解決策です。

# 批判の内容がおかしく、謝罪するに値しないと思ったらもちろん謝罪する必要はありません。

### (2) 無視（スルー）する

きわめて無礼な物言いや誹謗中傷は無視しましょう。「死ね」とか、「バカか」とか、最初から対話・議論をする気がない書き込みは無視（スルー）が基本です。このような相手に反論すれば、ますます調子に乗って攻撃してくるだけです。ですから無視しましょう。

# 現実の世の中では人を無視するのは失礼でいけないことです。が、ネット上での荒らしは無視しても失礼にはあたりません。

# 相手のコメントを削除する、あるいは相手を書き込めないようにブロックする手もあります。それで収まればそれで解決です。ただ、IDを変えてまた書き込んでくることもあるので、いつも有効とは限りません。

なお、友人の掲示板など第三者の立場にあなたがいても同じです。友人が無視しようとしているなら、友人を助けようとして荒らしを論すなど反応してはいけません。荒らしによけいな燃料を与えることになってしまうからです。

### (3) 主張を通す

逆に主張を通す手もあります。強い心があるので誰でもできることではあ

りませんが、1つの方法です。ただし、このとき主張を伝える相手は、目の前の荒らし・炎上相手ではなく、背後にいるあなたの友人たちです。

#炎上の攻撃者は、そもそも議論する気がないことが多く、聞く耳を持ちません。説得は不可能です。主張する相手は、攻撃してくる者ではなく、その場を見ているあなたの友人たちです。友人たちを思い浮かべながら、友人達に向けて語るようにしましょう。「いま私はこう非難されていますが、それについて私はこう思っています」と友人に語るのです。

主張を通して攻撃者が納得することはめったにありません。たいていは消耗戦になります。いわば消耗戦に耐える覚悟のある人だけができる対処法です。消耗戦に疲れたら、無視など他の戦略に移すればよいでしょう。

#### (4) 攻撃者は少数であることを思う

無視しても攻撃が続くことがあります。主張することに疲れてくることもあります。そういうときは、炎上の攻撃者はごくごく少数であり、多数の読者はあなたを支持していると思って、気を強く持ちましょう。

#炎上事件でひどい書き込みをしてくる人は実はごく少数であることがわかっています。炎上すると世界中があなたを責めているような気がしてきますが、そんなことはありません。9割以上の人は、そのような書き込みに心を痛めており、あなたの味方です。味方なのになぜ黙っているのかと思うかもしれませんが、反論すると攻撃者はさらに喜んで書き込みを増やすので放置しているのです。ほとんどの人はあなたの味方だと思って、気を強く持ちましょう。

もし友人が炎上したのなら、そっとその友人を励ますのもよいでしょう。炎上に巻き込まれると、執拗に攻撃されるので孤独を感じやすくなります。そんなとき味方がいることを確認するだけで気が楽になるものです。炎上の

背後には、常に良識のある多数派がいることを（自分が炎上したら）思い出すようにし、また（友人が炎上したら）思い出させるようにしてあげましょう。

最終的に攻撃者の言葉が小鳥のさえずりのように聞こえるようになればしめたもので、気にせずに無視してやりすごすことができます。

(5) いざとなれば閉鎖してやり直せばよい。法的措置も可

あまりに攻撃がひどく、やりきれないと思ったら、その場をいったん閉鎖することもできます。アカウントの削除、掲示板の書き込み不可、ブログの閉鎖などです。ほとぼりが冷めたころにまた再開すればよいのです。

#相手に負けたようで悔しいとおもうかもしれませんが、そんなことはありません。大きな炎上は大人でも専門家でも防げないので、誰も負けたとは思いません。しばらくしたらケロツとして再開すればよいだけです。

なお、攻撃があまりにひどく、実害が生じるなら法的措置もありえます。まわりにいる詳しい大人に相談してください。

### 3. 議論の種類を区別する

あからさまな誹謗中傷ではなく、議論の形をとりながら荒れるあるいは炎上することがあります。これは相手が相互理解のための議論ではなく、相手を倒すための議論をしかけてきたときに起こります。

#議論には2種類あります。

「相互理解のための議論」と「相手を倒すための議論」の2種類です。

相互理解のための議論では、相手と自分の意見の違いの理由を見つけるのが目的です。事実認識が異なっているからなのか、それとも何が大切かの優先順位が異なっているからなのかがわかれば十分です。それで相手が理解で

きます。どちらが正しいか間違っているかは問題ではないので勝ち負けはありません。お互いの意見の弱点をさらすのも平気で、たいていはおだやかに議論が進みます。

一方、相手を倒すための議論では、相手を論破し、倒すのが目的です。あくまで自分は正しく、相手は間違っているとして相手を攻撃します。いわば喧嘩です。倒すのが目的なので相手の弱点を徹底的に叩き、こちらの弱点は隠します。政治的論争がだいたいこれで、テレビの討論番組はこの形式になっていることが多いです。

現実の世界で友人と話をするときなどで圧倒的に多いのは、相互理解のための議論です。現実の世界では相手を理解できれば十分だからです。そもそも相手を倒す議論を友人にしょっちゅう吹っ掛けていたら、嫌われて誰からも相手にされなくなるでしょう。ただ、ネットでは、自分の正義を確信して、相手を倒す議論をする人が現実世界よりはるかに頻繁に現れる傾向があります。

相手を倒す議論を仕掛けられた場合、それに応じるなら覚悟を決めてやる必要があります。ただ、テレビ討論と違って司会者も時間制限もないので、長引き、不毛になり、感情的になってやがて罵倒しあいになることも多いです。

相手を倒す議論をする気がないときは、あっさりそう告げて議論に応じなければよいです。是非の論争をする気はないので……とか言って打ち切ります。相手は勝手に勝利宣言をして去っていくかもしれませんが、気にしなければよいでしょう。

#### 4. 大きな炎上事件に関心を持ったなら

身近なところではなく、時に社会的に大きな炎上事件が起こります。このような大きな炎上事件に関心がわき、意見・感想を持つのなら、元の人の発言を見てからにしましょう。炎上事件での書き込みには、元の発言を読んでいない例が多く見られます。例えば「〇〇がこういうことを言ったらしいが、ひどい。許しがたい」というつぶやきは要注意です。〇〇さんが本当はどう言ったのか自分で確かめてから意見・感想を持つようにしましょう。元の発言を見て自分

で考えると、炎上の批判は一面的で、事件についてさまざまな見方ができることに気づくことも多いはずです。

---

以上、ひな型の例を述べてきた。現実には高校生向けに語るときは、具体的な事例を挙げて説明することになる。

この炎上リテラシーには市販の炎上対策本とは異なっている点が2点ある。

第1は、炎上を避ける方法として「話題の限定」を入れていないことである。通常の炎上対策本は、炎上しやすい話題を避けるという対策を挙げることが多い。民族問題は避ける、アイドルネタは危ない、などである。しかし、第3章の3-4で述べたようにこのように話題の限定をしていくと、話せない話題が増えて情報発信の萎縮そのものにつながる。炎上を避けるために、社会の重要話題を取り上げるなどなるのでは意味がない。自由な社会はどのような意見も表明できなければならない。その自由を放棄せよというようなことを高校生に説くべきではない。

第2の特徴は、炎上対策として、3で議論の種類をそろえよとしている点である。現実世界での議論は相手を理解するために行われることがほとんどである。友人間では相手の言うことが理解できればよいのであり、論破して倒そうとはしない。これに対し、ネット上では相手を論破して倒そうとして議論する人が実に多い。相手を倒すための議論は政治論争やディベートなどで行われるもので、自分が正しいとして相手を徹底的に攻撃する。この2つのタイプの議論が混在すると問題が生じやすい。よく見られるのは、相互理解型のおっとりとした議論をしているところへ、相手を倒す型の議論の人が現れ、その場が荒れてしまうケースである。炎上対策としてはこの2つのタイプの議論を混ぜないことが大事であって、相手のタイプで議論する気がないなら、さっさと切り上げた方がよい。

ここで考える炎上リテラシーは炎上に負けずに情報発信を続けるためのリテラシーである。炎上リテラシーは炎上をおそれて縮こまるリテラシーであってはならない。そのようなリテラシーがあるのか問う人もいるかもしれないが、